

2018年度 八洲学園高等学校 学校関係者評価

学校関係者

氏名（ふりがな） 森下優子（もりしたゆうこ）

八洲学園高等学校との関係：外部スクールカウンセラー

評価日時：2019年 5月 20日

【2018年度八洲学園高等学校自己評価報告書（結果）の評価】

様々な生徒の様相にあわせて、非常に手厚い教育、ケアをされていると思います。

各生徒の視線をつかみに行く態度で、これは、ユマニチュードという知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションにもとづいた医療ケアの技法です

が、非常に有効的な結果をだしており、これと類似しているものを感じます。

生徒も、2年3年とみていると、ひとりひとは成長していて、学校生活の場面をから、教員の熱意のたまものと感じます。

すべての教員が、同じ方向と姿勢を一貫されていて、ご父兄は、安心してお子さんをみまもってくださいと、実際に保護者に伝えています。

また、学校全体としてのこまやかな教育計画や実施は、実現可能なものであり、昨年より、さらに尽力されているように思います。

それにたいしての教員ご自身の評価も、正当であり、来年度の飛躍が期待されます。

2018年度 八洲学園高等学校 学校関係者評価

学校関係者

氏名（ふりがな） 小島 俊久（こじま としひさ）

八洲学園高等学校との関係：外部スクールカウンセラー

評価日時：2019年5月20日

【2018年度八洲学園高等学校自己評価報告書（結果）の評価】

学校運営、教育内容については概ね自己評価が高い水準にあることは、教職員の方々の日頃の努力が反映されていることと推測する。課題としては、教育内容の内「情報教育」項目のとして ICT 教育設備の更なる充実が挙げられる。また「国際理解」項目の自己評価を厳しくされていることは、教員の方々が国際社会に対応するグローバルな人材育成の必要性を感じている意識の表れと理解できる。今後更に、国際時事や異文化を学ぶ活動機会の増加が望まれる。

生徒指導においては一貫性を保ちつつも、多様な個人の諸事情や背景を考慮し保護者やスクールカウンセラーとの連携を密にする個別性を重んじた関わりが取られていることを実感する。

「進路指導支援」項目の文科省委託事業「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」として取り組まれている「支援を要する子どもたちを中心とした就労支援」は、多様な生徒の実情やニーズに合わせた教育の提供・実施に取り組まれており、学校現場と実社会のギャップを埋めるプログラムとして高く評価できる。次年度もより一層の研究の元、更なるキャリア教育内容の充実が図られることを期待する。

今後も支援を要する生徒の入学は増えることが予想されるが、スクールカウンセラーの立場からはキャリア教育・進路指導は生徒の精神面との関連が高いため、連携、共有を更に深め個別対応の精度を上げていくことを今後の課題と提言する。